

平成 21 年度

子どものための活動支援事業

木太校区子ども会

木太校区子ども会育成連絡協議会では、子どもたちが外に出て遊びたくなるような用具の充実、なかまづくりや体力の向上をねらいとして備品の整備をしました。それは、次の3つです。

○ なわとびジャンピングボード（なわとびの練習台）10台

本校区にはこれまで5台あったのですが、冬季の子どもの利用度が高く、板が割れたり、ねじが破損したりするなど傷みが激しくなっていました。また、冬場の体力づくりとしてなわとびが中心としてあることから、新調することを考え、長い時間順番待ちをしなくてもいいよう一挙に10台導入しました。20分休みの全校なわとび練習の後や、昼休みには、高度な技の練習をしたり、回数を増やすために跳び方の確認をしたり、ふわっと宙に浮かんだ感覚を楽しんだりする姿が見られました。



○ ハンドベースボール（各学級4個、合計72個）

本校区の体力の課題として投力があり、全学年全国の平均値を下回っています。各教室には、ドッジボール2個、サッカーボール1個置いていますが、これらのボールでは、ボールを握って投げるという感覚はつかめません。そこで、手の平にのり、柔らかいので恐怖心を持つこともないうえ、けがの心配も少ないハンドベースボールを購入しました。

キャッチボールをしたり、ハンドベースボールのゲームをしたりと、学年を問わず、遊び方も広く様々な使われ方をしています。ボールを扱う機会が増え、投力の向上を期待したいものです。



○ ピッチングボード（的当ての的）2台

キャッチボールで遠投をしていて、数十メートル先を投げようとボールを投げた瞬間、ボールが後方に飛んだり、2、3メートル先の地面にたたきつけたりという場面を何度か見るようになりました。投げる経験の不足と同時に、ねらったところに投げるコントロールにも課題があるように感じられました。そこで、ねらいを定めて投げられ、相手がいなくてもできるピッチングボードを導入しました。



単純に的をねらうだけでなく、得点化して友達と競争したり、距離を変えたりといった遊びの工夫も見られました。また、ハンドベースボールだけでなく、頑丈なのでドッジボールを投げたり、サッカーでキックのターゲットとして使う姿も見られました。

平成21年度子どものための活動支援事業購入品

木太校区子ども会

